

***The Pioneers* の Natty Bumppo :**

宗教と社会の新しい関係を求めて

肴 倉 宏

Natty Bumppo in *The Pioneers*:

A Search For A New Relationship Between Religion and Society

Hiroshi Sakanakura

抄 録

The Pioneers の Natty Bumppo は、Templeton で霊的そして社会的な苦しみを体験する。その結果、彼は、物語の最後で Templeton を去る。Natty Bumppo は、宗教と社会の新しい関係を求める象徴的な旅に出るのである。

キーワード：ジェームズ・フェニモア・クーパー、『開拓者たち』、ナッター・バンポー、宗教と社会

(2003年9月8日 受理)

Abstract

Natty Bumppo in *The Pioneers* experiences spiritual and social sufferings in Templeton. As a result, he leaves Templeton at the end of *The Pioneers*. Natty Bumppo starts on his symbolic journey to search for a new relationship between religion and society.

Key words: James Fenimore Cooper, *The Pioneers*, Natty Bumppo, Religion and Society

(Received September 8, 2003)

James Fenimore Cooper は、the Leatherstocking Tales の最初の作品 *The Pioneers* を1823年に出版した。この作品は、これまで文明と自然の対立の構図の中で解釈されてきた。たとえば、George Dekker は、“Cooper’s general theme is the displacement of the primitive order by civilization” と述べている。⁽¹⁾ Dekker は、文明が原始的な自然にとって代わることを作品のテーマと捉えている。文明と自然の対立の構図の中でとらえると、Natty Bumppo は失われつつある原始的な自然の価値を重視する猟師として解釈されることになる。しかし、闇に覆われた舞台の中で Natty Bumppo を捉え直してみるとどうなるであろうか。闇に覆われた舞台の中で捉え直してみると、Natty Bumppo は象徴的な意味を与えられた新しい人間像として浮かび上がってくるように思えるのである。そして *The Pioneers* の舞台は、重要な意味を持つてくるように思える。

闇は、作品 *The Pioneers* を構成する重要な要素となっている。物語の舞台となっているのは、New York 州の Otsego 湖畔にある Templeton の町である。Templeton は、開拓されてから数年しか経っていないが文明生活に必要なものが徐々に整えられつつある発展途上の町である。物語は、Templeton の町が今まさに夜の闇で覆われようとしている場面で始まる。Cooper は、物語の第1章で “it was near the setting of the sun, on a clear, cold day in December.” (16) と述べている。⁽²⁾ 夕暮れから始まった物語は、直ちに夜へと進む。物語の第1章の闇の場面は、第15章まで続いている。*The Pioneers* は、全部で41章から構成されている作品だが、その最初の15章は闇で覆われた場面である。しかし、この作品で闇が果たす役割は、作品を構成する要素として重要であるだけでない。闇は、作品のテーマを支える重要な意味をも与えられている。Cooper は、闇に与えられている意味を Hiram Doolittle を通して示している。Cooper は、Hiram を次のように描いている。

He was of a tall, gaunt formation, with rather sharp features, and a face that expressed formal propriety, mingled with low cunning. (118)

Hiram の表情は、礼儀正しさと同時に卑しい賢さを示している。実際、彼は、物語の中で “an impudent” (289), “a pettifogger” (289), “that rascally carpenter” (300), “cunning magistrate” (313), “yon varmint” (314), “this harpy” (330), “a blood-sucker” (380) と述べられている。Hiram は、倫理的に腐敗した男なのだ。Hiram の倫理的に腐敗した様子は、彼が建てた建物を通してさらに強調されている。“a certain wandering, eastern mechanic” (42) である Hiram は、Marmaduke Temple の従兄弟 Richard Jones に “a very undue influence over Richard’s taste” (42-43) と述べられているように必要以上の影響を与え、二人で町の建築を請け負うことになった。しかし Hiram が建てた Temple の家は、“deformity” (45) が目立つ。しかも家と周りの環境との間には、“much of incongruity” (45) が見られるという具合である。さらに家の基礎と上部構造との間に隙間ができ “the foundations actually left the superstructure suspended in the air” (60) と言われているように上部構造は宙に浮いている。Hiram は、欠陥住宅を建てたのだ。彼の建てた欠陥住宅は、Hiram の倫理的不完全さの具体的な現れなのである。こうして Hiram を包み込んでいる闇は、倫理的腐敗を隠し悪の跳梁を許す象徴性を与えられていることが暗示されている。

Cooper は、Hiram を通して闇に与えられている象徴性を一層強調している。Hiram は、*The Pioneers* の第26章以降で物語の展開に極めて重要な役割を果たしている。彼は、第26章で Natty Bumppo の小屋の周りをうろつき革紐でつながれていた Natty Bumppo の犬 Hector を解き放つ。そして彼は、鹿を追わせるのだ。Hector に追われてきた鹿を見て Natty Bumppo と John Mohegan は、禁猟期間にもかかわらず誘惑に負けて鹿を殺す。法を犯した Natty Bumppo は、このことをきっかけに逮捕され裁かれそのうえ牢獄につながる。Natty Bumppo の逮捕を契機に判事としての Temple と Natty Bumppo に命を助けられた Temple の娘 Elizabeth との間で感情的な対立が起きる。さらに、Temple と彼の事務助手をしている Oliver Edwards は、Natty Bumppo のことで喧嘩別れをしてしまう。Temple と喧嘩別れをした Oliver Edwards は、第37章で山火事に巻き込まれ逃げ道を失い絶望的になっている。そして彼は、山火事の中で死ぬのも湖上での鹿狩りが原因だと言う。実際、彼は、迫り来る猛火の中で死の覚悟をしている John Mohegan を指しながら、Elizabeth に次のように言う。

He considers this as the happiest moment of his life. He is past seventy; and has been decaying rapidly for some time; he received some injury in chasing that unlucky deer, too, on the lake. Oh! Miss Temple, that was an unlucky chase indeed! it has led, I fear, to this awful scene. (410)

Oliver Edwards は、鹿狩りがすべての不幸の原因だと言う。この狩猟で怪我をした John Mohegan は、怪我が原因で第38章で死ぬ。Natty Bumppo と John Mohegan に鹿狩りをするように仕向けたのは、Hiram Doolittle なのである。Hiram は、物語の第26章以降で起きる不和、対立、絶望や死をもたらす根源なのである。Natty Bumppo は、不幸をもたらす Hiram を “you may be formed in the image of the Maker, but Satan dwells in your heart.” (377) と行って非難する。Hiram Doolittle は、悪の化身なのである。作品の舞台を覆う闇は、倫理的腐敗を隠し悪の跳梁を許す象徴的な意味を与えられている。

Cooper は、まず初めに物語の舞台を設定した。物語の舞台は、開拓されて数年を経たばかりの New York 州中央部にある Templeton の町である。Templeton は、闇で覆われている。闇は、倫理的腐敗を隠し悪の跳梁を許す象徴性を与えられている。こうして Cooper は、これから闇に覆われた Templeton で起る事柄にまつわる問題の中心が悪の認識に関するものであることを暗示している。

Natty Bumppo は、物語の第1章で闇に覆われた舞台に登場する。彼は、Hiram Doolittle から恨みをかうようなことをした訳でないのに Hiram につけ狙われている。悪の化身 Hiram は、Natty Bumppo の小屋の周りをうろつき彼の小屋の中に潜り込む機会を伺っている。Oliver Edwards は、Natty Bumppo の小屋の周りをうろついている Hiram を見かけると “He has no business in this quarter, unless it be curiosity, which is an endemic in these woods.” (289) と言う。Natty Bumppo も Hiram に関して “He craves dreadfully to come into the cabin, and has as good as asked me as much to my face.” (290) とやっている。さらに、Hiram は、アメリカ豹を殺してその耳を持っている Natty Bumppo に出会

うと報奨金を申請する書類を書くことを口実に彼の小屋に行こうとする。実際、彼は、Natty Bumppo に“*Well, let us go down to your hut, where you can take the oath, and I will write out the order.*” (313) と話し掛け Natty Bumppo の小屋に入り込もうとする。悪の化身 Hiram は、Natty Bumppo の小屋に入りたがっている。

悪の化身 Hiram が入りたがっている Natty Bumppo の小屋は、一獵師が住む粗末な小屋を表わしているだけでない。それは、象徴的な意味をも与えられている。Natty Bumppo は、かつての上官で今は毫碌している Major Effingham を自分の小屋に引き取り世話をしているのだ。Natty Bumppo は、思いやりのある暖かい人間である。Natty Bumppo の小屋は、粗末な外観から想像もできない豊かな人間性をその内側に秘めている。彼の小屋は、破壊されると二度と再生できないかけがいのない人間性を象徴している。実際、Natty Bumppo は、前より立派な小屋を再建すると語る Elizabeth に“*in a sorrowful voice*” (386) で次のように話している。

Can ye raise the dead, child!... can you go into the place where you've laid your fathers, and mothers, and children, and gather together their ashes, and make the same men and women of them as afore! (386)

Natty Bumppo は、死人を復活させることができないように破壊された人間性は取り戻せないと言う。物理的に小屋を再建したとしてもそのうち側の人間性が破壊されたままでは無意味なのだ。Natty Bumppo の小屋は、神聖にして侵すべからざる魂の在り処なのだ。象徴性を与えられた小屋に潜り込もうと企てている Hiram は、Natty Bumppo の人間性に入り込み内側から荒廃させようと目論んでいる。Natty Bumppo は、悪の化身 Hiram に人間性を蝕まれ魂を喪失する霊的な危機に直面している。

魂を喪失する霊的な危機に直面している Natty Bumppo は、悪からの解放を希求している。第26章の Natty Bumppo と Oliver Edwards との対話に耳を傾けてみることにする。Natty Bumppo は、Otsego 湖畔に住み始めた頃に山の上から人間の営みを見て孤独感を紛らわしていた。しかし彼は、最近樹で覆われたところで黙想することを好ましく思っていると。実際、Natty Bumppo は Oliver Edwards に次のように話している。

When I first come into the woods to live, I used to have weak spells, when I felt lonesome; and then I would go into the Catskills and spend a few days on that hill, to look at the ways of man; but it's now many a year since I felt any such longings, and I'm getting too old for rugged rocks. But there's a place, a short two miles back of that very hill, that in late times I relished better than the mountains; for it was kivered with the trees, and nateral. (293)

Natty Bumppo は、樹で覆われ場所が自然でいいと言う。彼は、樹の下で瞑想する人物である。樹の下で瞑想する Natty Bumppo の姿は、ヨハネ福音書のナタナエルを彷彿する。ヨハネ福音書のナタナエルは、イエスに「いちじくの木の下にいるのを見た」と言われた人物である。⁽³⁾ いちじくの木の下にいるナタナエルは、神の約束した救い主が現れるのを待ち望んでいると言われている。⁽⁴⁾ 樹の下で瞑想する Natty Bumppo の正式な名前は、

Nathaniel Bumppo である。ヨハネ福音書のナタナエルを連想させる Natty Bumppo は、神の約束した救い主が現れるのを待望している。

物語の設定は、救い主を待望する Natty Bumppo を考える場合に見落とすことができない重要な意味を持っている。Cooper は *The Pioneers* を12月の“Christmas eve”(27) で始めている。クリスマス・イブは、救い主を待望する気持ちが高揚している時である。Natty Bumppo は、クリスマス・イブの夕暮れに狩りをしている。狩猟は、Natty Bumppo の生計を支える職業であるばかりではない。それは、象徴的な意味も与えられている。クリスマス・イブに猟をしている Natty Bumppo は、救い主イエス・キリストの姿を探し求めている。彼は、肉体を養う獲物より魂を養う霊的な存在を求めている。実際、彼は、“a pheasant or a partridge”(28) を打ち落とすと“Here is a tit bit for an old man's Christmas—never mind the venison”(28) と言っている。彼は鹿肉にこだわる Oliver Edwards や Temple と対照的につつましい雉子で満足する。Natty Bumppo は、第9章に描かれている Temple の贅を尽くした豪華な食事を備えて救い主の誕生を祝うより悪に蝕まれて破碎された魂を捧げて救い主の現れを待つのである。魂を喪失する霊的な危機に直面している Natty Bumppo は、聖書に示された救い主イエス・キリストを待望している宗教的な人物である。

救い主イエス・キリストを待ち望む Natty Bumppo の目の前に現れるのは、Marmaduke Temple である。Temple は、物語の第1章でクリスマス・イブの夕暮れに狩りをしている Natty Bumppo の目の前に現れる。Cooper は、Natty Bumppo の目の前に現れた Temple を次のように描いている。

From beneath this masque were to be seen part of a fine manly face, and particularly a pair of expressive, large blue eyes, that promised extraordinary intellect, covert humour, and great benevolence.(18)

防寒具に覆われた間からわずかに見える Temple の表情豊かな目は、彼が知性、ユーモア、善意の持ち主であることを示している。彼は、人々に常に善意に満ちた対応をしている。Natty Bumppo との間でどちらが鹿を射止めたか議論になる時も Temple は、持ち前のユーモアと善意を失うことはない。Natty Bumppo が Temple の射撃の腕前を“you burnt your powder, only to warm your nose this cold evening.”(21) と皮肉たっぷりにこき下ろしても、“smiling good humouredly”(21) と描写されているように Temple は、“The gun scatters well, Natty, and it has killed a deer before now.”(21) とにこやかに答えている。Temple の Natty Bumppo に対する対応は、一貫して“undisturbed good humour”(22) や“unconquerable good nature”(24) と描かれている。彼は、善意溢れる人物であることが強調されている。

Temple の柔和で善意に満ちあふれた人柄は、Oliver Edwards に対する対応を通して一層強調されている。Temple は、誤って Oliver Edwards を怪我させてしまう。彼は、その償いに十分な教育を受けているが経済的に困窮している Edwards を自分の事務助手として雇うつもりでいる。ちょうどクリスマスの日 Temple は、その提案を Edwards にする。

ところが、Oliver Edwards は、自分が受け継ぐはずの土地を Temple に奪われたと誤解し彼に敵意を抱いている。Temple は、刺々しく対応する Edwards に耐え諄々と説き伏せ自分の提案に同意させる。彼は、Edwards を説き伏せた後で娘の Elizabeth に自分の対応について次のように言う。

I have surely endeavoured to remember the holy mandates of our Redeemer, when he bids us 'love them who despitefully use you,' in my intercourse with this incomprehensible boy. (204)

Temple は、敵をも愛せというイエス・キリストの教えを思い起しそれを Oliver Edwards に対して実践したのだ。彼は、イエス・キリストの誕生を祝うクリスマスの日に愛の行為を実践できたことを喜んでいる。柔和で善意にあふれる Temple は、イエス・キリストのように振る舞っている。

Temple のキリスト教信仰に対する姿勢は、第7章の John Mohegan との対話を通してさらに示されている。John Mohegan は、Oliver Edwards の手当てをするために Temple の家に行く。彼は、Oliver Edwards を Young Eagle そして“Miquon”(84) と呼ばれた William Penn の支持者達を Miquon の子供と言う。彼は、Oliver Edwards と Temple を見ると次のように言う。

The children of Miquon do not love the sight of blood; and yet, the Young Eagle has been struck, by the hand that should do no evil! (87)

John Mohegan は、善意の人間でも人を傷つけ悪をなしてしまうことを指摘している。彼の言葉を聞いた Temple は、John に次のように言って弁明する。

Mohegan! old John!... thinkest thou, that my hand has ever drawn human blood willingly? For shame! for shame, old John! Thy religion should have taught thee better. (87)

Temple は、意図的に Oliver Edwards を怪我させたのではなく誤って怪我させたと釈明している。彼は、悪意のなさを強調しているのだ。しかし John Mohegan は、なおも、“The evil spirit sometimes lives in the best heart.”(87) と主張する。彼は、善人の中にも悪が存在すると言う。彼は、人間の意思や意図を超えて働く悪の不思議さを指摘しているのだ。John Mohegan は、悪に対する深い洞察力を持っている。対照的に悪意の無さを強調する Temple は、意思や意図を超えて人間の中に存在する悪を理解できない。Temple は、人間の善意を強調するけれど悪を深く認識することができないのである。このような Temple は、Templeton を覆う闇に倫理的腐敗を隠し悪の跳梁を許す象徴性を読み取ることができないのである。ましてや、Temple は、Hiram Doolittle を悪の化身と理解できない。

Marmaduke Temple を支えているキリスト教信仰を深く理解するためには、物語の時代に注目する必要がある。物語は、“Our tale begins in 1793.”(16) と Cooper が述べているように1793年である。1793年は、アメリカ建国の父で初代大統領 George Washington の二期目が始まった年である。Temple は、大統領 Washington を尊敬している。実際、彼は、家に “the dignified composure of the face of Washington”(64) を彫った胸像をおいてい

る。彼は、Washington だけでなく Benjamin Franklin をも尊敬している。Franklin は、科学者としても良く知られているばかりかアメリカの独立にも偉大な貢献をし、物語が始まるわずか3年前に亡くなったばかりである。Temple は、“Old Franklin, in his cap and spectacles” (64) の胸像もおいている。Washington と Franklin は、ともに18世紀合理主義の精神を体現した理神論者であったと言われている。Franklin は、*The Autobiography* の中で13の徳目を挙げている。そして彼は、13番目の徳目として“humility”をかかげ“Imitate Jesus and Socrates”と述べている。⁵⁾ 彼は、謙虚さを学ぶためイエスやソクラテスの生き方をまねよと言う。Franklin は、イエスをソクラテスと並んで道徳的な規範を示してくれた偉大な教師とみなしイエスの教えを実践することを心掛けている。Washington や Franklin を尊敬している Temple は、彼等と同じ精神を共有している。Temple は、合理主義的・博愛主義的キリスト教信仰の信奉者なのだ。

Temple に対する Natty Bumppo の態度は、Temple の体現するキリスト教信仰に対する Natty Bumppo の姿勢を示すことになる。Temple は、Natty Bumppo に常に柔和で善意溢れる姿勢をとっていた。対照的に Natty Bumppo の Temple に対する対応は、“rather surlily” (21), “An air of sullen dissatisfaction” (22), “the ill humour of the hunter’s manner” (23) と描かれている。Natty Bumppo は、Temple に不機嫌な態度をとっている。彼のこの態度は、Natty Bumppo が Temple の体現するキリスト教信仰に批判的であることを示している。Natty Bumppo は、悪の化身 Hiram に人間性を蝕まれ魂を喪失する霊的な危機に直面していた。このような Natty Bumppo は、悪から人間を解放し破碎された魂を再生してくれる救い主を切実に待ち望んでいた。ところが彼の目の前に現れた Temple は、合理主義的・博愛主義的キリスト教信仰の信奉者なのだ。彼は、善意の人間の中にも潜む悪を深く認識できなかった。Temple が具現する信仰は、悪からの解放を求めている Natty Bumppo の期待に答えるものでなかった。Temple は、神殿を意味する名前が与えられている。しかし Temple の神殿は、救い主が不在で空虚なのである。Natty Bumppo は、救い主不在の空虚な神殿で礼拝するつもりはない。実際、Natty Bumppo は、Temple に招かれても “No—no... I have work to do at home this Christmas eve” (27) と言って Temple の招きを断っている。彼は、物語の最後まで一度たりとも Temple の家に行くことはない。Natty Bumppo は、Temple の体現している合理主義的・博愛主義的キリスト教信仰に失望している。

Temple のキリスト教信仰に失望した Natty Bumppo は、次に、救い主との出会いを求めて Mr. Grant のクリスマス・イブの礼拝に出席する。Mr. Grant は、“the Protestant Episcopalian Church” (104) の牧師である。彼は、物語が始まる数日前に Templeton の町に着任したばかりなのだ。第12章の Mr. Grant と Oliver Edwards との対話に注目してみる。Mr. Grant は、礼拝終了後に Oliver Edwards に話し掛ける。Oliver Edwards がエピスコパリアンの教会で洗礼を受けたことを知ると、Mr. Grant は次のように言う。

It is so unusual to find one of your age and appearance, in these woods, at all acquainted with our holy liturgy, that it lessens at once the distance between us, and I

feel we are no longer strangers. You seem quite at home in the service. (134)

Mr. Grant は、祈祷書に従ったエピスコパリアンの礼拝を守る Edwards を同宗の信徒と知り彼に親近感を持つ。彼は、エピスコパリアン以外の他の宗派を “a dissenting meeting-house” (134) とみなし、そこでは “false doctrines” (138) が吹き込まれていると言う。Mr. Grant は、エピスコパリアンがキリスト教の正統派であると自負している。実際、彼は、エピスコパリアンに関して “the constant enjoyment of our excellent liturgy” (137), “all the advantages of a settled doctrine and devout liturgy” (137), “the advantages of our liturgy” (138) としきりに強調する。彼は、自分の宗派に対する意識の強い牧師として描かれている。Mr. Grant は、キリスト教信仰を教派的・教理的に捉えている。

Mr. Grant のキリスト教信仰に対する姿勢は、インディアン John Mohegan との対話を通してさらに示されている。John Mohegan は、Temple に “The evil spirit sometimes lives in the best heart.” (87) と主張していた。彼は、善人の中にも悪が存在すると言う。John Mohegan の指摘は、彼の境遇を振りかえってみるとずっしりとした重みを持って響いて来る。彼は、インディアンを無知と迷信から解放しキリストの福音をもたらすことを目的にした善意に満ちたキリスト教の伝道者によってキリスト者にされたのだ。しかし、その結果、John Mohegan の部族は土地を奪われ絶滅へと追い込まれた。John Mohegan は、部族の悲劇を語り得るただ一人の生き残りなのだ。彼は、善意のキリスト教徒によってなされた悪を語り得る生き証人である。John Mohegan の善人の中にも悪が存在すると指摘する言葉は、Temple だけでなく牧師の Mr. Grant にも向けられたものと言えよう。John Mohegan と Temple のやり取りを聴いていた Mr. Grant は、John Mohegan に次のように言う。

Surely John... you remember the divine command of our Saviour, 'judge not, lest ye be judged.' What motive could Judge Temple have, for injuring a youth like this; one to whom he is unknown, and from whom he can receive neither injury nor favour? (87)

Mr. Grant は、マタイ福音書7章1節のイエスの言葉を引用して人を裁くなと忠告し Temple を弁護している。彼の忠告は、その場の気まずい雰囲気を取り繕う融和的な作用をしているけれども John Mohegan の鋭い指摘を圧殺してしまう。ましてや、Mr. Grant は、自分の中に存在する悪を自覚し反省する素振りも見せない。John Mohegan が流された血は血で償われなければならないと異教的な復讐を口にするのを聴くと、Mr. Grant は、すかさず John Mohegan に次のように言う。

John, John! is this the religion that you have learned from the Moravians? But no—I will not be so uncharitable as to suppose it. They are a pious, a gentle, and a mild people, and could never tolerate these passions. Listen to the language of the Redeemer—'But I say unto you, love your enemies, bless them that curse you; do good to them that hate you; pray for them that despitefully use you and persecute you.'—This is the command of God, John, and without striving to cultivate such

feelings, no man can see him. (139)

Mr. Grant は、インディアン伝道に熱心なキリスト者を弁護するが、彼等がなした悪に全く気がつかない。そして彼は、ひたすら敵をも愛せよ迫害する者のため祈れと主張しキリストの福音を信じることを強要する。彼は愛や赦しを教条的に繰り返すばかりである。彼は、善人の中にも悪が存在するという John Mohegan の指摘を深く理解できない。このような Mr. Grant は、Templeton を覆う闇に倫理的腐敗を隠し悪の跳梁を許す象徴性を読み取ることができない。ましてや、彼は Hiram を悪の化身と理解できない。Mr. Grant は、教派的で教条的なキリスト教信仰に安住している。

Mr. Grant の具現するキリスト教に対する Natty Bumppo の姿勢は、クリスマス・イブの礼拝に出席した Natty Bumppo の様子に示されている。Cooper は、礼拝に出席した Natty Bumppo を “Natty... seated himself on the end of a log... where he continued.... absorbed in reflection, seemingly, of no very pleasing nature.” (125) と描写している。続いて、Cooper は、礼拝後の Natty Bumppo を次のように描いている。

His countenance expressed uneasiness, and the occasional unquiet glances, that he had thrown around him, during the service, plainly indicated some unusual causes for unhappiness. (133)

Natty Bumppo は、クリスマス・イブの礼拝中ずっと魂の苦悩を抱えたままである。彼は、魂の苦悩を解きほぐすメッセージを Mr. Grant の説教から感じ取れなかった。Natty Bumppo は、Mr. Grant のキリスト教にも失望する。このような Natty Bumppo は、Mr. Grant の招待を断る。Natty Bumppo とともに礼拝に出席した Oliver Edwards がエписコパリアンであることを知っておおいに喜ぶ Mr. Grant は、Natty Bumppo、John Mohegan そして Oliver Edwards を家に招待する。しかし Natty Bumppo だけは、次のように言って招待を断る。

No, no... I must away to the wigwam: there's work there, that mus'nt be forgotten, for all your chuchings and merry-makings. Let the lad go with you in welcome; he is used to keeping company with ministers, and talking of such matters; so is old John, who was christianized by the Moravians, about the time of old war. (134)

Natty Bumppo は、独り自分の小屋に戻る。Mr. Grant は、キリスト教信仰を教派的に捉えエписコパリアンの正統性を主張する。そればかりか、彼は、善意のキリスト教伝道者にも潜む悪を深く認識できない。それでいて彼は、キリストの愛や赦しを教条的に繰り返すばかりである。Natty Bumppo は、Mr. Grant の説くキリスト教信仰にも失望する。

Natty Bumppo は、Templeton のキリスト教信仰に魂の渴望を癒す霊的な力を感じ取ることができなかつた。彼は、霊的に満たされないばかりでない。Natty Bumppo は、Templeton の法の下でも苦しみを受ける。Hiram は、悪の化身として描かれているだけでなく Templeton で治安判事の役割をも果たしている。治安判事として現れた悪の化身 Hiram は、法律の知識を利用して Natty Bumppo を陥れようとする。彼は、Natty Bumppo が鹿の禁猟に関する法律を破るように仕組むのだ。まず、彼は、Natty Bumppo の犬 Hector

をつないでいる革紐を切る。次に、彼は Hector に鹿を追いかけさせる。Hector に追われた鹿は、Natty Bumppo たちが釣りをしている湖に逃げる。Natty Bumppo は、いったんは Hector に鹿を追うのを止めさせようとする。しかし彼は、鹿が余りにも立派なので誘惑に負けて次のように言う。

'Tis a noble creature!... what a pair of horns! a man might hang up all his garments on the branches. Lets me see—July is the last month, and the flesh must be getting good... The creature's a fool, to tempt a man in this way. (296)

Natty Bumppo は、鹿の魅力に負けて禁猟期間にもかかわらず殺してしまう。猟を終えた後で Natty Bumppo は、Hector が解き放たれた原因を考える。Hector の革紐が切られた痕を見て、彼は “It was the carpenter; and he has got on the rock back of the kennel, and let the dogs loose by fastening his knife to a stick.” (300) と言う。Natty Bumppo は、Hiram の仕業であることを見抜く。彼は、Hiram を悪の化身と見抜くだけの鋭い倫理的な洞察力を備えている。しかし彼は、悪の化身 Hiram の仕掛けた誘惑に抗しきれず鹿を殺してしまう。こうして悪の化身 Hiram は、Natty Bumppo に法律違反を犯させる。

次に、悪の化身 Hiram は、判事 Temple をも利用する。Hiram は、Natty Bumppo が鹿を殺したのを見届けた上で Temple に訴える。第30章の Hiram と Temple のやり取りに注目する。Hiram は、Natty Bumppo のことを一言も口に出さず Temple が法律違反者を厳格に取り締まるつもりがあるかどうかを確認する。Temple が “I am determined to see the law executed, to the letter, on all such depredators.” (329) と言うのを聴くと、Hiram はここで初めて Natty Bumppo の名前を持ち出す。そして彼は、Natty Bumppo が違反者だと訴える。Hiram が訴えにくる直前に娘 Elizabeth の命を Natty Bumppo に救われたばかりの Temple は、Hiram に言質を与えた以上娘の命の恩人であれ Natty Bumppo を裁かなければならない苦境に立たされる。Hiram を悪の化身と認識できない Temple は、Hiram の抜け目ない策略に引っ掛かるのだ。さらに、Hiram は、Natty Bumppo の小屋を調べる家宅捜査令状を Temple に出させようとする。令状は治安判事でも出せるのだ。それを知っている Temple は、“Then issue the warrant thyself; thou art a magistrate, Mr. Doolittle; why trouble me with the matter?” (329) と言う。あくまでも Temple に令状を出させようとする Hiram は、Temple に次のように答える。

Why, seeing it's the first complaint under the law, and knowing the Judge set his heart on the thing, I thought it best that the authority to search should come from himself...

Now the Judge has a weight in the county that puts him above fear. (329)

Hiram は、違反者を厳格に取り締まるつもりだと言った先ほどの Temple の言葉を彼に思い起させる。しかも彼は、これが初めての事例なので判事 Temple の権威が重みを持つと言う。こうして Hiram は、Temple に捜査令状を出させようとする。なおも出し渋る Temple に Hiram は、“But if the Judge don't conclude to issue the warrant, I must go home and make it out myself.” (329) とダメ押しの一言を浴びせる。Hiram は、Temple に法的な正義を選び社会秩序を守るのかそれとも道義的な正義を選び社会秩序を崩壊させるのかの二

者択一を迫るのだ。Temple は、“his reputation for impartiality” (329) を Hiram に疑われ、結局、捜査令状を出す。悪の化身 Hiram は、悪を深く洞察することができない Temple を手玉にとる。

悪の化身 Hiram は、Temple を利用するだけでない。彼は、町中の人々をも利用する。Hiram は、Temple の署名入りの家宅捜査令状を持って Natty Bumppo の小屋に向かう。その際、彼は、“that dissatisfied, shiftless, lazy, speculating fellow” (317) と Temple に酷評された Jotham Riddel と腕力に自信のある “good-natured vanity” (333) と描かれた Billy Kirby を保安官補に任命する。彼は、Natty Bumppo と親しい Billy Kirby に行き先も知らせず報酬で釣って連れていく。Hiram は、Jotham と Billy を人間の盾として利用するのだ。彼は、二人の陰に隠れ次のように Natty Bumppo に言う。

I demand entrance into this house... in the name of the people, and by vartoo of this warrant, and of my office, and with this peace-officer. (336)

Hiram は、法の権威を笠に着て入室を要求する。Natty Bumppo は、これまで何度も悪の化身 Hiram に悩まされてきた。彼は、悪の化身 Hiram に人間性を蝕まれ魂を喪失する危機に直面していた。そればかりか彼は、悪の化身 Hiram の仕掛けた罠にはまり鹿の禁猟に関する法律を犯してしまった。Hiram に酷い目にあわされてきた Natty Bumppo は、Hiram に “Stand back, stand back, Squire, and don't tempt me.” (336) と警告する。それでも Hiram は、挑発を続ける。とうとう我慢できなくなった Natty Bumppo は、追い払おうとして Hiram に鉄砲を向けてしまう。このことは、罰金刑ですむ鹿殺しの違反以上のことを Natty Bumppo に犯させることになる。Natty Bumppo の行為は、社会秩序を守る治安判事や保安官補の生命を脅かしたことで社会秩序の転覆を企てたとみなされる。Natty Bumppo の反抗を聞いた町の人々は、命を張って社会秩序を守ろうとした治安判事 Hiram の英雄的な行為を称える。しかし逆に彼等は、Natty Bumppo を社会秩序の転覆者とみなすのである。町の人々は、Natty Bumppo に対して義憤を感じる。実際、判事 Temple の従兄弟で “Sheriff of the county” (182) をしている Richard Jones は、Natty Bumppo の逮捕に向かう時に町の人々を前に次のように言う。

I have required your assistance... in order to arrest Nathaniel Bumppo, commonly called the Leather-stocking. He has assaulted a magistrate, and resisted the execution of a search-warrant, by threatening the life of a constable with his rifle. In short, my friends, he has set an example of rebellion to the laws, and has become a kind of out-law. (355)

Richard Jones は、Natty Bumppo を社会への反逆者として逮捕すると言う。町の人々は、悪の化身 Hiram を社会正義の体現者と見なし、逆に Hiram を悪の化身と洞察している Natty Bumppo を社会に反抗する極悪人と見なしてしまう。悪の化身 Hiram は、町の人々の悪に対する認識不足を利用して正邪を逆転させてしまうのである。悪の化身 Hiram にそそのかされた町の人々は、正義感に燃え Natty Bumppo の逮捕に協力する。その結果、悪の化身 Hiram は、Natty Bumppo を裁きの座につかせることに成功する。

Natty Bumppo は、悪の化身 Hiram の策略のため Templeton の法の下で裁かれる。悪の化身 Hiram は、Natty Bumppo を法社会の転覆を企てる反社会的な男に仕立て上げることに成功した。Temple は、法律違反を厳罰に処すると Hiram に言質を与えていた。そのため彼は、たとえ娘の命の恩人であっても Natty Bumppo を処罰しなければならないことになる。彼は、第33章の裁判の場面で Natty Bumppo に次のように言い渡している。

In forming their sentence, the court have been governed as much by the consideration of your ignorance of the laws, as by a strict sense of the importance of punishing such outrages as this of which you have been found guilty. They have, therefore, passed over the obvious punishment of whipping on the bare back, in mercy to your years; but as the dignity of the law requires an open exhibition of the consequences of your crime, it is ordered, that you be conveyed from this room to the public stocks, where you are to be confined for one hour; that you pay a fine to the state of one hundred dollars; and that you be imprisoned in the gaol of this county for one calender month; and furthermore, that your imprisonment do not cease until the said fine shall be paid. (369-370)

Natty Bumppo は、1時間のさらし者の罰、100ドルの罰金そして1ヵ月の投獄の罰を受ける。彼は、Templeton の法の下で厳しい社会的な制裁を受ける。彼は、町の広場に連れていかれさらし台につけられる。彼は、町のさらし者にされたことを Benjamin Pump に次のように言う。

is it no harm to show off a man in his seventy-first year, like a tamed bear, for the settlers to look on! Is it no harm to put an old soldier, that has sarved through the war of 'fifty-six, and seen the inimy in the 'seventy-six business, into a place like this, where the boys can point at him and say, I have known the time when he was a spictacle for the county! Is it no harm to bring down the pride of an honest man to be the equal of the beasts of the forest! (374)

Natty Bumppo は、7年戦争や独立戦争でも国のため戦った軍人としての誇りを傷つけられ手なづけられた熊のように見せ物にされている。彼は、野獣と同様の扱いを受けたことに強い屈辱を感じているのだ。悪の化身 Hiram は、Natty Bumppo に鹿を殺させる段階から裁判に至るまでのすべての過程で深く関与している。法を熟知している悪の化身 Hiram は、法の背後に潜み法社会を巧みに操っている。法社会の中に潜りこんだ悪の化身 Hiram は、Templeton の法を悪用して Natty Bumppo の人間としての尊厳を奪ってしまう。

Natty Bumppo は、Templeton の社会で2重の苦しみを体験している。彼は、人間を悪から解放してくれる救い主イエス・キリストの出現を切実に待ち望む魂の渴望を癒すことができない霊的な苦悩を味わっていた。さらに彼は、悪の化身 Hiram に蹂躪された Templeton の法の下で社会的制裁を受けている。Natty Bumppo は、彼が受けた苦しみを通して Templeton の抱えている危機を浮かび上がらせている。Hiram を悪の化身と深く認識できない町の人々は、悪の化身 Hiram が法社会の中に潜り込み悪用することを許し

てしまっていた。彼は、悪に対する認識不足がキリスト教信仰を形骸化させるだけでなく法社会をも崩壊させる危険を孕んでいることを身を持って示している。霊的そして社会的な苦悩を体験した Natty Bumppo は、Templeton の社会に潜んでいる病巣を抉り出している。

Templeton で苦悩を体験した Natty Bumppo は、*The Pioneers* の最後で Templeton を去り西に向かう。彼は John Mohegan と Major Effingham の死を契機として Templeton を去る。Donald A. Ringe は、Natty Bumppo の西へ向かう旅を次のように説明している。

The asocial man, free from restraint except for those moral imperatives that bind men in all times and place, flees the sometimes unjust restraints of a civilized society. But his flights does him no good; it merely begins the cycle and makes it all the easier for those social injunctions to catch up with him. He becomes, therefore, the inevitable herald of the civilization he most wants to avoid.⁽⁶⁾

Ringe は、Natty Bumppo の旅を文明社会からの逃避と言う。しかも彼は、Natty Bumppo の文明社会からの逃避は結局文明社会を導くアイロニカルな働きをしていると言う。Ringe は、Natty Bumppo の旅を消極的でアイロニカルに解釈している。しかし Natty Bumppo の旅は、もっと積極的で象徴的に解釈されるべきであろう。Natty Bumppo の旅は、人間を悪から解放し悪に蝕まれた魂を再生してくれる救い主イエス・キリストへの信仰を深める霊的探求の始まりなのである。そして彼の旅は、救い主イエス・キリストへの信仰に基づいた社会の在り方を探る旅の始まりでもある。Natty Bumppo は、宗教と社会の新しい関係を模索する象徴的な旅に出るのだ。宗教と社会の新しい関係を模索する Natty Bumppo の旅は、the Leather-Stocking Tales の二作目である *The Last of the Mohicans* と三作目の *The Prairie* で結実することになる。

註

- (1) George Dekker *James Fenimore Cooper The Novelist* (London: Routledge and Kegan Paul, 1967) 45
- (2) James Fenimore Cooper *The Pioneers, or the Source of the Susquehanna; A Descriptive Tale* (Albany: State University of New York Press, 1980) 本論文中の作品からの引用は、全てこの版による。なお、() 内の数字は、そのページを示す。
- (3) 新共同訳聖書 聖書協会 165
- (4) ウィリアム・パークレー著 柳生 望訳 「ヨハネ福音書」上 (東京: ヨルダン社, 1973) 124-129
- (5) J. A. Leo Lemay and P. M. Zall eds. *Benjamin Franklin's Autobiography* (New York: Norton & Company, 1986) 68
- (6) Donald A. Ringe *James Fenimore Cooper* (New Haven: College and University Press, 1962) 36